

編集後記

『企業家研究』はこれまで年1回(7月)発行でしたが、この第19号を皮切りに2月と7月の年2回発行することとなりました。発行の頻度が上がることにより、より多くの方々に本誌に論文を投稿いただけるようになればと期待しております。また、これを機に新たな企画を始めるなど掲載内容の拡充を図り、本誌の読者である企業家研究フォーラム会員各位へのサービス向上にも資することができればと考えております。

「年2号化」の最初となる今号を手にとられた皆さまの目にまっさきにとまったのは、装いを新たにした表紙でしょう。デザインをデザイナーの成海禎美氏(文京学院大学コンテンツ多言語知財化センター)にお願いしました。デザインの意図については、成海氏に寄せていただいた一文が表紙の裏に掲載されていますので、是非ご覧ください。この新たな表紙から「企業家研究フォーラムらしさ」を感じとっていただけたら幸いです。

ところで本年(2022年)は、企業家研究フォーラムが設立20周年(2022年12月)を迎える年です。また、本フォーラムの母体となった大阪企業家ミュージアムは、昨年6月に開設20周年を迎えています。今号は、それらの記念すべき時期に重なるタイミングでの発行となりました。そこで宮本二郎・企業家研究フォーラム初代会長に「企業家研究フォーラム結成20周年に寄せて」と題した一文をお寄せいただきました。ミュージアム開館とそれに続くフォーラムの設立の経緯、本誌の創刊を含むその後のフォーラムの活動の展開を振り返り、またこれからのフォーラムのあり方への期待も述べられています。

今号では2つの新たな試みを行いました。一つは年次大会共通論題セッションの取り上げ方です。これまでは、直近の年次大会で行われた「共通論題」について、大会当日の報告や討議の内容に即した形で、登壇者が執筆した要約ないし論文等を掲載してきました。これに対して、2021年7月の年次大会での共通論題「地域創生と企業家活

動」を今号でとりあげるにあたっては、当日の問題提起者だった山田幸三・前会長とご相談の上、共通論題登壇者に「地域創生と企業家活動」というテーマで改めて論文を募ることにしました。このテーマに関する限り、大会当日の報告内容や発言内容を踏襲するものでも、そこから派生したものでも、歓迎する、という方針をとりました。共通論題セッションでの議論を一層深化させる場にしようと試みたわけです。もっとも、次回以降も常にこのようにするというわけではありません。共通論題の取り上げ方の「新たな型」が1つ加わったものご理解ください。

新たな試みの2つめは「FES便り」というコーナーの新設です。このコーナーでは、年次大会以外で企業家研究フォーラム(FES)が最近開催(共催を含む)した行事を適宜ピックアップして、その内容をレポートします。今回は2021年9月15日に開催された「企業家に聞く」(大阪商工会議所と共催)の開催レポートです。この日、(株)日本M&Aセンター専務執行役員中村利江氏にインタビューした鹿住倫世氏に、中村氏のご講演の内容に加えて、インタビュー内容と質問の意図について振り返っていただきました。

なお、今号は年2号化の嚆矢であるとともに、2021年7月に発足した新たな編集委員会のもとで発行される最初の号でもあります。新体制の立ち上がり年2号化とが重なり、委員の方々はもとより事務局はじめ多くの関係者の方々に、いつも以上のご負担をおかけしました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。次第です。

(田中 一弘)